



8.27 江口洋子先生の講演会が行われました

A先生の新語コーナー



qù chǎnnéng “去产能”

生産能力削減。過剰な生産能力を解消することを指す。中国では近年、経済成長率の鈍化に伴い、過剰生産能力が問題となっており、具体的な削減目標が掲げられた。今年の目標は鉄鋼が4500万トン、石炭が2億5000万トンで、また、リストラされる従業員の再就職を支援するために1000億元の構造調整基金が設立された。しかし各地の進展状況にはらつきがあるため、國務院は8月下旬から特別監査を実施することを決めた。

(A)

ピンポン外交から2020年オリンピックまで

講師：木村興治氏（公益財団法人日本卓球協会 名誉副会長）

5、日中卓球交流

周恩来総理の目指した日中の卓球交流は1961年から1965年の文化大革命が始まるまで続きました。日本での開催の際は、右翼が宿泊先や体育館までやってきて妨害をしました。本当に中国の選手に申し訳なく思いました。そんなこともあり、卓球協会も予算が少ない中、必ず一緒に箱根を訪れました。どこの会場も超満員で、礼儀正しい中国の卓球選手を通して、日本人選手はもちろん、一般の方々も、中国は強いだけではなく、非常に素敵な選手たちだと印象をもったと思います。我々が訪中しても、同じようなことです。どこまでアピールできたかわかりませんが、いずれにしても、中国の選手は大変人間的な魅力のある選手たちでした。団体決勝は、1961年から1963年、1965年も決勝で日本は中国に敗れています。中国人選手は試合前に握手をすると、手がべっとりと汗で濡れていました。特に莊則棟は試合の直前まで、パートナーと練習をしているのです。ああ徹底的に練習をしてここに立っているのだなと。試合が終わり、顔を見合わせても言葉はかわしません。でも目と目を見合わせてお互い健闘をたたえて、審判と握手をしてベンチに戻る。でも、目を見ればわかります。卓球は、相手との距離は約4メートルです。4メートルというのは、ちょうど相手の表情が良く分かるのです。試合中でも相手がどんなことを考え、何を感じているのか。次はどんな手を打ってくるのか。お互いに感じながらやっています。テニスなどは相手が離れていますよね。卓球の4メートルというのは微妙なのです。私は卓球の特徴はそこにもあると思っています。そういうことから選手生活が

終わってからも、もっと相手を知りたいという、気持ちになりました。そんなことから今まで、中国人選手以外にも世界に仲間がいます。4メートルの距離が相手をもっと知りたいと思わせるのだと思っています。

6、文化大革命

ご承知の通り1966年、文化大革命がスタートしました。1966年まで私も訪中し、国際大会も中国で行われていました。その時、外を見ると紅衛兵と言われる中学生たちが旗を持って行進している姿を見ました。若かったですから、新しい中国をこれから作るのだということに、多少共感を覚えたことはあります。25、26歳の頃です。1967年、私もベテランになっていましたので、今度こそ中国に勝とうと訓練に訓練を重ね、代表に選ばれていました。ところが、1967年4月のストックホルム世界選手権に中国が不参加という連絡が国際卓球連盟から入りました。私は愕然となりました。目の前が真っ暗になりました。一番大切な相手が居ないということの悲しさを感じたのは、初めてでした。皆さま方も、ご存知かと思いますが、共生進化論という考えが私は好きなのですが、これは動物の世界では自分を倒すような相手が居る緊張状態でお互いが感じあうことにより進化していくという考え方があります。私は自分の緊張状態を保てる相手が居ることによって自分も成長していくというように自分なりに理解していました。その相手が自分の目の前から消えたような状態になりました。私は監督兼選手を命じられましたが、結局選手として出場することをやめ監督に集中することになりました。

1967年、中国が参加しない中で、日本は優勝しました。中国が出場しないのは、寂しい限りでしたが、監督として日本を勝たせなければならないという思いがありました。1967年頃になると、中国の卓球選手が、中国から逃亡したのではないかというニュースが伝わってきました。これは何かおかしいぞと。中国の社会的な価値のあるものが壊されているというニュースも入って来ました。社会主義国家をもう一度作り直すということは、資本主義的社会の動きの中に入り込んだということで、給料の高い卓球選手が批判の対象になったのではないかと思います。李富栄という荘則棟と双壁の選手は、名前が富み栄えるという名前であることで大きな批判の対象になり、李富勇という名前に変更しました、発音が近いそうですね。これだけ国家に貢献してきた卓球の選手をそこまで追い詰める中国の文化大革命はおかしいと思いました。さらに容国团やコーチや監督が香港から呼ばれたことで、スパイの嫌疑を掛けられて、抗議の自殺をしました。そのようなニュースを聞き、悲しくなりました。それで荻村伊智朗さんたちと一緒に、周総理に「中国の卓球選手はスポーツ界の改革のために、全力を尽くしている者と信ずる。また、プレーをお互いにできることを私たちは待っている。」という電報を打ちました。届いたかどうかは分かりませんが、そのくらいの気持ちでした。文化大革命は、1969年も続き、中国は1969年の世界選手権に出場しませんでした。少し落ち着いてきた1970年、いわゆるピンポン外交と言われた1971年の名古屋の世界選手権大会の前年、多くの有力選手が参加するストックホルムの大会に、中国は選手を派遣しました。日本は参加しませんでした。私は荻村伊智朗さんと一緒に、中国の選手が出るということで、視察に行きました。私は1971年の世界選手権のヘッドコーチを請け負っていましたから。本当に良く戻って来たくれたという気持ちで一杯でした。でも慣れ慣れしいことは出来ません、我々は選手団も派遣していませんから。二階で中国の選手と目を合わせるだけで、中国側も我々が来ていることが分かったと思います。

7、名古屋の世界選手権へ

1971年、なかなか中国の参加がはっきりしませんでした。それで日本卓球協会の会長である後藤鉦二さんが日中文化交流協会の村岡さんと2月に中国に渡りました。それで世界選手権に向けての参加要請をしました。なかなか周総理と会うことは出来なかったのですが、最終的には日本卓球協会、日本中文化交流協会、中華人民共和国卓球協会、中国人民対外友好協会、この四者で以て会談紀要にサインをし、それに基づき名古屋に選手団を派遣することが確定し

ました。紀要の主な内容は、中国敵視政策を実行しない、二つの中国を作る陰謀に加担しないこと、中日両国の国交正常化を妨害しないことなどの確約でした。当時私は、世界選手権の代表選手の選考方法の意見の違いから日本卓球協会のナショナルコーチを辞任していました。私は雑魚寝をするような部屋に泊まり込み、試合を全部観戦しました。中国の選手団から何度も声が掛かり、お会いして懇談をしました。その様子は『人民中国』にも何度も出ています。大会終了後、中国の選手団は、日本各地で交流をしました。本当に友好の気持ちを前面にだして。これは周恩来総理が特に選手団に言ったそうです。「友好第一の気持ちを一番大事に下さい」と。その一方で政治的にもしっかりと所がありました。世界チャンピオンだった荘則棟は、二回戦で中国が認めていない国家であるカンボジア選手との対戦を棄権しました。怪我や病気でもない選手が政治的な理由などで棄権した場合は、選手と派遣した協会にペナルティを与える規則がずいぶん後に出来ましたが、その頃はありませんでした。1972年、ご承知の通り、名古屋での世界選手権の期間中に、世界を驚かすニュースが出ました。大会後アメリカの選手団を中国に招くという決定をしたのです。アメリカはベトナム戦争などもあって、友好第一といわれても関係改善は難しい状況でした。しかし、アメリカ人選手が同乗したバスの中での荘則棟との交流などにより、米中の関係が動き出しました。後に荘則棟は毛沢東に、卓球も強いが政治的意識もしっかりしているとして評価され大臣になります。そして1972年5月にはニクソンが訪中し米中の交流がスタートします。

8、日中国交正常化

1972年に就任した田中角栄総理が、就任して最初に取り組んだことは日中国交正常化でした。日中国交正常化がされる直前の9月初旬、私は団長として体育運動委員会からの招待で訪申しました。まだ、北京への直行便はありませんでしたから、前回と同様、廣州を経由して北京に入りました。北京に到着したのは夜中の2時でした。9月の3日か4日かでしょうか。その飛行機を降りると、花束を持った高校生や大学生が5～60人立っていました。熱烈歓迎という声を出しながら。夜中の2時です。これはやはり国交正常化前の、一つの動きで、卓球の果たした役割を認めたいで歓迎してくれたのだなと思いました。中国側からは中国ではどんなことをしたいかと聞かれました。仲間と打ち合わせをして、中国の選手もみんな仲間ですから、彼ら選手の家族と会いたいと希望しました。そうすると、地方に居た中国人選手の家族なども子供も連れて来て一緒に食事をしました。選手の子供を

抱っこしながら楽しい食事の時間を過ごしました。さらに希望を聞かれましたが、このような機会ですので革命の聖地である延安に行きたいと希望しました。盆地である延安は、天候が悪ければ飛行機も降りられない、降りたとしても天候が悪ければ飛び立てないと言われましたが、我々はいいが良いから絶対に大丈夫だということで、特別機で行かせてくれました。その通り到着して、帰ってくるのが出来ました。延安では、毛主席が過ごされた洞窟の旧居、革命博物館などを見学し、毛主席が座られた机に座りました。洞窟の中には卓球台がありました。もちろんそれは、1972年ですから少し新しい卓球台でしたが、古い時にも卓球台はここにもあったと説明してくれました。そういうことに触れて、ここで中国革命を練ったのだなど、指導者が皆集まったのだなど思いをはせました。体育館などありませんから、外で模範試合を行いました。その後は、南京に行きたいと希望しました。ご承知の通り残虐行為を日本国軍国主義が行った最大の汚点が、南京だったわけです。スポーツ関係者で、そんなことを言う人は居ません、本当ですかと問われましたが、私は仲間と相談し、「日本では、ニュースになることもないし歴史的な勉強も教育の中にありません。どのような事件だったかは我々は知っています。しかし実際に被害者だった中国側がどのように感じているのか、どのような史実を残しているのか、それを知りたいと思います。」と答えました。

南京では一時間話しを聞きました。9月の20日頃だったでしょうか。暑い中冷房はありません、扇風機は回っていましたが。汗は出ましたけれども冷や汗でした。その夜は、本当に我々を気遣って、南京政府が一年に一回しか咲かない花をわざわざ我々のテーブルに飾ってくれました。花の名前は忘れちゃったけれど。その後、雨花台というところで花をささげ、革命烈士の墓を訪れたりしました。

スポーツ選手として、そんなことをしている人は居ないとか後から聞きましたが、我々はスポーツマンであるより日本国民であり、国交を正常化するには、そういうことをしておくべきであるという青臭い考え方もかもしれませんがそんなことをやってきました。帰国後すぐに報告書を作り、中国側にも関係者にも全部配りました。大変強い我々の意志が書かれています。その意思に基づき、自分なりに今日まで来たつもりです。

9、その後のスポーツ交流

卓球の仲間との交流は今でも続いています。2006年は、1956年に中国卓球選手団が東京に来てから50年目でした。私は、日本卓球協会の専務理事をしていましたから、これは、当時を振り返る大切な機会ですし、そして将来子供たちに繋げていこうと、中国と

卓球交流50周年記念交流を行いました。1956年の世界選手権に参加した私より年長の人も含めて訪中しました。飛行機などは自費でしたが、中国での費用は、中国側の招待でした。私は団長ですので車で行きますが、その他の参加者はバスで行きました。バスの前には、中国の昔の選手がずらーっと並んで待っていました。外国にいる選手も呼ばれて待っていました。この50周年を祝おうと我々は小学生も連れて行きました。単純に我々が思い出を語るだけではなく、いかに日中交流が大切かということのを若い世代に伝えるために。その後も2007年、国交正常化35周年記念交流を上海と東京で行いました。今でも様々な交流をしています。私がとても大切にしているのは、1992年の国交正常化20年から5年ごとに北京と東京、上海と大阪、天津と千葉、それぞれの友好都市で中学生の卓球交流をしています。今まで中国と日本を合わせて1200～1300人になります。このように時代をつなぐ若い人たちの象徴が福原愛選手です。本当に自然な形で中国と交流してくれています。我々にとっても福原選手の役割は大きかったと思います。今の日本の若い選手が出てくる土台を作ったのが福原選手です。福原選手は、小学生の時から日中交流をしています。東北訛りの中国語が可愛がられて、いまだに福原選手が訪中すると本当に人気はすごいと思います。福原選手が卓球の中にいたことは大変幸せなことだと思います。2008年に東京で胡錦涛主席が来られた時に、早稲田出身の福田総理とともに早稲田大学で講演をされました。その後に卓球交流をすることになりました。福原選手と世界チャンピオンの王楠選手が試合をし、その後福原選手がお二人を卓球に誘うと、胡主席は待っていましたと、上着を脱ぎ、眼鏡をはずし、マイラケットで福原選手と本気で対戦を始めました。福田総理も誘われましたが、胡主席の様子を見て、遠慮してしまいました。対戦が終わった後、胡主席が福原選手に向けた言葉には、とても感激しました。胡主席は「あなたは私のことは余り知らないでしょう。しかし、私はあなたのことを良く知っています。」といったのです。福原選手にとってもこんな感激的な言葉はありませんね。胡主席が福原選手や卓球をこのように考えてくれているのだと私も大変幸せな気持ちになりました。

10、2020年東京オリンピック・パラリンピック

間もなくリオオリンピック・パラリンピックが始まります。ロンドンでは金メダルが7個、トータルメダルが38個だったのです。なんとかして、金メダルを13～14にしたいと思っています。これには根拠があります。去年の世界選手権を見ますと、柔道、水泳、体操、レスリング、テコンドウ等が金メダルをいくつ

か取っています。卓球は銀でしたけれど。そういうようなことから、リオではトータルメダル数が38個程度だと思えますが、金メダルは結構いくのではと思っています。東京は率直に言って、金メダルは12の倍を狙おうと、それからメダルは40近くを狙おうと。これはもう主催国ですら出る種目が圧倒的に多いのです、主催国権利で。しかも、新しい種目が多分8月に決まりますが、野球、ソフトボール、これらはメダルがほぼ間違いないだろうと。ただ日本の強化費は、300億なのです。中国は数千億を使っています。国も大きいですからね。ヨーロッパやアメリカもスポーツに関して巨額な予算を持っています。日本は少なくパラリンピックを入れて300億です。ですからこれを増やそうと、やはり充実した体制でもって東京に臨もうと思っています。いずれにしてもリオが終わると東京が盛り

上がってきます。私も卓球界の一員として東京の盛り上げに協力したいと思っています。



古月清舟

蝉が鳴いているよ

「蝉が鳴いているよ」

今年も子供のほうが先に蝉の声に気づいた。言われれば確かに聞こえる。

それから数日後、蝉時雨の響きは大きなものになり、子供に言われるまでもなく日常の音になり、車の音、工事現場の音、草刈りの音、車内放送の音など、すべての音を閉じ込め、思索に没頭する静寂な時を与えてくれる。

蝉の命は7日と言われている。今鳴いているのは去年の蝉ではなく、まして故郷でかつて聞いていた蝉と同じであるはずもないが、なぜか幼いころの記憶を懐かしく蘇らせる。

夕日が沈みかけていた。

茜色の射す四階建ての集合住宅の共同ベランダに何人かの友達と戦利品を出し合い、品定めをしていたあの日。蝉や蜻蛉の大きさや色、形を比べては、自分の取ったものが一番だと騒いでいる吾らの傍では夕涼みの大人たちが「今年も暑いね」等とどうでもいい会話を交わしていた。

十数年前、当時の友人とかつて住んでいた建物を訪ねた時、あんなに広々としていたベランダが思いのほか小さいことにビックリしたことがある。その後再訪したら、その建物は既に取り壊されており、ビルの谷に不気味なコンクリートの山があるのを、あぐりと口を開けて眺めるばかりだった。けれど、その時も蝉の鳴き声は昔のまま。

「夏のかぎり心のかぎり鳴く蝉にすっかり我を渡してしまえり」(『長風』の方の歌)

僕は、しばし蝉の鳴き声に身も心も預け、蝉時雨を浴びながら、思い出の中で佇んでいた。

「蝉」のことを中国語で「知了」とも言われている。

その鳴き声は、「知了知了(ミンミン)」に聞こえるからそう呼ばれているそうだが、「了(おわり)を知る」からこそ、疲れも知らず、命のある限り鳴き続ける蝉の姿は逞しく儂い。

「この浮世始まりあれば終わりある輪廻転生春夏秋冬」
一つまた一つ、終わりを通過しながら、僕は日々を送っている。

中国語の「蝉」という発音は「禪」と同じ。「知了」はどこか参禅の後の悟りを連想させる。異国で暮らし、異文化という透明な壁にぶつかる時、禅問答をしているような心持になることもある。やがて修行の到達点、了(終わり)を知ることはできるだろうか。そこに至るには仏門の修行のように厳しいと思うこともあるが、「日日是好日」であるように心がけたい。

「夏という季節はタフに過ごすもの真一文字に蝉時雨降る」(『長風』の方の歌)

暑く苦しい修行の夏があればこそ、豊饒な秋に訪れるであろう悟りの時、名月の輝く静寂な月夜は限りなく美しい。

来年こそ子より先に言いたし「蝉が鳴いているよ」

コトムシ



図書室 だより

読んでみる？ 見てみる？それとも…

だいぶ涼しくなってきました。暑くてだらけていた体もシャキッとしてきた気がします。この時期、学習にうまく活かしたいですね。

《読んでみる》

●『朋友』（シリーズ最新刊）
《汉语风》中文分级系列读物
第3級 刘月华/储诚志 主编
北京大学出版社

中国語を学ぶ外国人向け読み物。

本シリーズは1級～8級まであり、現在3級まで出版されています。『电脑公司的秘密』『第三只眼睛』等があり、既に読まれた方もいらっしゃるかと思います。本図書室には1級（300字）～3級（750字）まで、計17冊が配架されています。MP3も付いていますので、“聴き取り”の訓練もできます。1級とはいえ、聴くとなると、決して侮れません。

●『解忧杂货店』 东野圭吾著



李盈春译 南海出版公司

（邦題：ナミヤ雑貨店の奇蹟）
五つの章から成り立っており、それぞれ

の章が短篇集のような趣があります。邦題の“ナミヤ”だけではわかりにくいですが、文字を入れ替えると…。

この雑貨店で何が起こるか？主人公はだれなのか？読み進めないと解決できないストーリー

展開になっています。秋の夜長に最適かもしれません。

●『今、中国が面白い』 Vol.10
—中国がわかる60篇—而立会訳



三濑正道監訳
日本僑報社

本書の帯に—あなたの知識時代遅れになっていませんか？—とあります。1年分の人民日報から厳選に厳選を重ねて選んだコラムが15章60篇で構成されています。日本と中国、中国が直面する問題など、庶民の暮らしに重点を置きつつ、政治・経済まで、興味深いコラムが紹介されていて、今の中国が解る良書です。

《見てみる (DVD)》

●『曹社長の18人の秘書たち』
～曹老板的十八个秘书～ 上巻
日中通信社

『没秘书真忙、有秘书真烦…』（秘書がいないと忙しい、秘書がいると煩わしい…）経営不振に陥った会社をいやいや引き継ぐ二代目社長。やり手の秘書は、経営を担うのが夢で、社長夫人の座を狙っている。二代目社長と彼を取り巻く女性秘書たちが巻き起こすドタバタ喜劇。楽しみながら学習できます。雑誌『聴く中国語』2012・1～2014.9まで連載されたドラマで、全32話。上巻は16話まで。他にセリフの対訳DVDが付いています。16話以降が見たい方は雑誌『聴く中国語201年6月号』からご覧下さい。

《言ってみる》

●『こんなとき、どう言う？』
中国語 表現カトレーニング』
CD 1枚付 岩井伸子著 NHK出版



レストランでの注文は何とかなるものの、友人と片言ながらも会話をすると、どういって言いかわからない場

面に多々ぶつかります。

この書はそんな悩みを一挙に解決してくれそうです。中国語での表現がパターン化されているため分かりやすく、例文は身近な日本語のため覚えやすいのです。この書を一冊仕上げたら、友人はどんな反応を見せるか？楽しみです。

☆新着図書☆

●DVD『石山雄太の京劇入門「無底洞」舞台裏から◎西遊記—無底洞の巻』日本語字幕付き

●『「日本の衣食住」まるごと事典』とよぎきょうこ、ステュウット・ヴァーナム・アットキン共著MP 3付●『帝都東京を中国革命で歩く』譚璐美著●『孫文—近代化の岐路』深町英夫著
その他多数。揭示をご覧ください。

☆奇贈☆

下記の方々より奇贈がありました。御礼申し上げます。

●高木美鳥様（執筆者）より『まいにち中国語』8月号

●張武静様（執筆者）より『レベルアップ中国語』8月号

●相原茂様（著者）より『中国人は言葉で遊ぶ』現代書館

●飯塚容様（翻訳者）より『ブラインド・マッサージ』（原題：推拿）白水社

10月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
						1 ●本科 17年度生 推薦入試 受付開始 ●別科 朗読大会
2	3	4	5	6	7 ●別科 公開講座 18:45～	8 ●別科 263期 授業開始
9	10 ●祝日	11 ●別科授業休み	12	13	14	15 ●中国語検定 受付締切
16	17	18	19	20	21	22
23/30 ●日曜中国語	24/31	25	26	27 ●安藤先生生日	28	29 ●文化祭
●11月の日中学院 ・1日…本科・日本語科文化祭代休 ・4日…本科 推薦入試受付締切 ・6日…本科推薦入試		・7日…日本語科定期試験(～11日) ・8日…本科 推薦入試合格発表 ・9日…本科 1次募集受付開始 ・12日…本科生のための公開講座		・14日…倉石先生生日 ・27日…中国語検定 ・28日…別科アンケート開始		

特別講座のご案内

- 短期集中 耳トレ中国語 担当：楊魁魁
開講期間：10月15日(土)～全9回(10/29…休)
16:00～18:00
受講料：33,300円
聞くことだけで、中検3級程度の内容の会話、短文を理解していくこと目指します。
- 日曜中国語 担当：日中学院専任講師
開講期間：10月23日(日)～全4回 10:30～12:00
受講料：11,100円
中国語を初めて勉強する方向向けの講座です。
中国語が話せるようになる楽しさを体験して下さい。
- 音読から学ぶ発音講座 担当：小澤光恵
開講期間：11月5日(土)～全4回 13:30～15:30
受講料：14,400円(在籍者、学生割引あり)
音読することを楽しみながら、同時に中国語らしい発音を身につけましょう。
- 音節表で学ぶ発音講座 担当：小金井京子
開講期間：11月1日(火)～全4回 18:45～20:45
受講料：14,400円(在籍者、学生割引あり)
ピンインを確認しながら声調の乱れを一つ一つ見直しましょう。

10月8日(土)から263期中国語別科講座が始まります。初級から上級まで多くの授業が開講します。授業の聴講なども出来ますので、是非ご検討下さい。

10月29日(土)は文化祭です!

今年も文化祭を行います。
詳細はチラシをご覧ください。
多くの皆様のご来場をお待ちしております。



本科2017年度

本科生推薦入試受付が始まります

申込期間：10月1日(土)～11月4日(金)まで
試験日：11月6日(日) 合格発表：11月8日(火)
推薦入試を受験された方には、特典として入学金が通常の10万円の半額の5万円となります。
本科をご検討されている方を対象とした公開講座も開講します。

本科説明会を兼ねた中国語無料公開講座

11月12日(土)、2017年1月28日(土)
(どちらかお選びください)

9:30～13:00頃まで
全日制本科をご検討されている方向けの公開講座です。
ご希望の方は、日中学院事務局までお申込み下さい。
電話：03-3814-3591
e-mail: info@rizhong.org

